

西北に咲く春を告げる花(カタクリ)

この冬の寒さ、きびしさ、雪の多さに、連日のマイナス日は、暖冬に慣れた身には堪えませんでした。「冬来りなば春遠からじ」忘れていた言葉を思い出し、春を待ち遠しく、楽しみな花に想いがいきます。

春を告げる花。まず先に咲くオウレン。続いて咲き出すカタクリが、私にとっては春を告げる花です。

町内には、希少な山野草の自生地が何ヶ所もあり、中でもオウレンは「きさらの森」。カタクリは「鞍掛山」「鷹ノ巣山」がオススメですが、山へ登らずともすぐ見られる名倉の里も魅力。

※農道脇につき、そばの町道へ車を停めて生活作業のジャマになりませんように。

花は不思議のかたまり。早春に咲くカタクリさんは、特に謎だらけの不思議。

【ふしぎ①】
何故か西北向きの斜面に咲く。まだ寒い早春に、しかも午後からしか陽が当たらず日照時間の短い西から北側斜面に咲く。

【ふしぎ②】
種で土の中に入ってから芽が出、小葉で光合成してわずかに地表にいるだけで、五月には枯

れて土の中で球根で生き、また翌年春に葉を出してを繰り返し、なんと開花するまでに八年前後に要するのはなぜだろう。

【ふしぎ③】
花びらをシベの上へかつぎ上げ、カゴのように咲き、夕方には閉じる。その持ち上げた時に見える絵柄。

で、わからないことは直接聞くに限る。

筆者…
「なぜ、人間的には良相ではない西北で咲くの？」
カタクリ…

「寒そうに見えますが、一日のうちで一番気温の高いのは午後一時から三時。周りも暖まっているから。それに木々にはまだ葉がなくて、良く陽が当たるし、咲いたら他には色がとぼしいので目立つのよ。」

筆者…
「なるほどミヤマツツジと同じだね。」
カタクリ…

「八年もかかるのは、少しずつ養分をためた方が力がつき長く咲けるのよ。」

筆者…
「ふん、そうか。花びらの絵柄とカゴのようなパフォーマンは蜂などを呼ぶためとか。」
カタクリ…

「ええそうよ。遠くからでも目立つように。濃い花びらの色も。」

筆者…
「うん、花は目立ちたいよね。だったら東南でも何処でも咲けばいいのに。」
カタクリ…

「……。」

筆者…
「たぶん光のせいだね。朝の光より、午後の光だね。」

と、まあこんな風に戯れてみましたが、わからないことが多い西北に生息。午後二時の光で咲くヒツジグサの例もあり、人知の及ばぬ光の世界で、午後一時から三時の光が当たる西北だけに咲く。

山野草。希少な設楽町の植物。きびしい冬を土の中で過ごし、どんな顔で咲いてくるのでしょうか。きっと満面の笑顔で咲いてくれるでしょう。ぜひ皆さんも会いに行きましょう。

(設楽町文化財保護審議会委員)

金田 俊博



午後の日差しに開きながら、花弁をシベの上に丸めて咲いてゆくカタクリ



つぼみではなく、朝夕の状態のカタクリ
雨が降ると花びらを閉じ身を護る



沢を上ってくる微風にさえ、小さな花びらをブルブルふるわせて咲くオウレン